

## 梅雨が明け・・・

観測史上初めて、6月中の梅雨明け宣言が行われました。これも温暖化現象の影響でしょうか？先週から各地で猛暑日が相次いでいます。田植えも最盛期を迎えているようですが、このように降水量が少ないと、稲の生育が心配されるようです。まあ、明日は台風が接近しますので、多少の降雨が見込まれますが、これで十分かという不安があります。今後「給水制限が行われるのでは」「気温が上がり、熱中症が更に増えるのでは」等々、心配の種は尽きません。いずれにしても私達の生活に大きく影響してくることは間違いありません。何より注意しなければいけないのが、水難事故。この時期、暑さのあまり海や川に飛び込んで・・・というニュースを度々耳にします。「これくらい大丈夫」という気の緩みが大事故につながるようです。これから「暑さ」と上手につきあう必要もあります。幸い、加津佐には海水浴場があります。ルールを守り、安全対策を十分に行ったらうでマリンスポーツを楽しむのも一策です。今年も“熱中症”ではなく、勉強やスポーツなどを一生懸命頑張る“熱中 Show の夏”となることを期待しています。



## 七夕・・・

「7月7日は何の日？」もうお分かりですね。そう“七夕”です。保育園や小学校の頃は願い事を書いた短冊を竹に飾ったことと思います。(今年、1年教室と3組教室にも飾られました。)この七夕の由来等について、あらためて紹介します。

七夕の話は、中国古代の民間伝承がもとになっています。織姫と彦星は、中国では織女(しよくじょ)と牽牛(けんぎゅう)。ちなみに韓国やベトナムにも七夕があります。日本には、奈良時代に宮中儀式として伝わり、織姫が機(はた)織りの上手な働き者だった…という内容から、手芸や裁縫の上達を願う風習につながりました。星に願い事をする原型はここから始まっています。江戸時代になると七夕は「五節句」の一つとされ、幕府公式の祝日でした。寺子屋などでは紙の短冊に願い事を書き、読み書きの上達を願ったようです。

七夕と書いて「たなばた」と読むのは、日本では古来、神事などに使う高貴な布を織る行為をたなばた(棚機)と呼んでいたため。本来なら「しちせき」と読む外来語に、「たなばた」という大和言葉を当てたようです。ちなみに、天の川をまたぐ織女星はこと座のベガ、牽牛星はわし座のアルタイルで、どちらも1等星です。日本では7月上旬から見えやすくなり、七夕のころだと20~22時ごろ、東の空の下の方に見え始めます。はくちょう座のデネブを加えて、「夏の大三角」とも呼ばれています。(ぜひ、「夏の大三角」を観察してみてください)

なお、七夕に無病息災を願ってそうめんを食べていたことにちなんで、南島原市は7月7日を「そうめんの日」としています。今年も、7日には給食で“冷やしそうめん”がふるまわれます。これは、市から無償提供していただいたとのこと。おいしくいただきたいと思います。